佐藤ジン、ステップス初個展である。1948 年宮城県仙台生まれ、80 年代は主にパンクロックミュージシャンの撮影、90 年代は暗黒舞踏と現代美術、2000 年代は人の姿を消した都市風景、2011 年から 3.11 の記録を発表し続けている。今回のテーマは「無音地上大津波痕画」である。

会場に貼られたステートメントの一部を引用する。「2011 年 3 月 11 日に発生した地震、M9.0 による大津波の破壊力を、後世に伝える事の意味を認識し、津波痕跡を記録すると決め、震災の 1 ヶ月後、4 月 12 日より先ずは土地勘のある名取から石巻まで、仙台湾周辺を撮影する。その後、2 年かけて 5 回、通算 23 日間の取材を重ねる。北は八戸から三陸沿岸を下り、福島第一原発から直線 7Km の位置、福島浪江町まで撮影。

撮影方法は、津波現場の徹底的なディティールの記録を主眼とし、35mm デジタルカメラ、広角レンズではなく、標準レンズもしくは準望遠レンズを使用してゆがみを極力なくし、パノラマ手法によって、少ないもので 3 枚、多いもので 11 枚にて構成されています。縦 61cm×2m～3.5m のキャンバス生地にインクジェットプリント」。

書道家の矢野花風がタイトル文字を描き、佐藤は画廊内に 11 つの連作と事務所に 1 つの連作を展示した。作品はステートメントにあるように徹底的な「記録」であり、画面が歪まないよう広角レンズを用いないので、パソコン上で組み合わされた全体像は一枚の写真そのまま、枠に整えない。ここにも「記録」＝「客観視」しようとする意図が込められている。何よりも重要なのは撮影された場所と日が作品タイトルにあるように、ありのままを写していることにある。写真は写す者の視線であり、「演出」がなされているが、それをできるだけ排除することにより、生きている「人」が画面に留められていることに注目したい。複数の事実は、一つの真理でもあるのだ。

〒104-0061 東京都中央区銀座 4-4-13 琉映ビル 5F Tel&Fax 03-6628-6195 http://www.stepsgallery.org/